

活用目的				地域課題キーワード	分析者			
現状の把握	課題の特定	戦略・施策の検討	効果の検証		教育機関	地方公共団体	研究機関	民間企業・団体
○	○	○		【医療・介護・福祉】医療費削減、健康寿命の延伸		○		
目的	岩見沢市では、健康づくりの取組において「地域社会としての環境づくり」と「気づきに基づく市民の行動変容」が重要であると捉えており、特に行動変容を促す上でデータに基づいて重要な気づきを市民に伝え、自分事として理解いただく必要がある。そうした背景を踏まえ、健康予報システムにより岩見沢市の健康度を解析・可視化し、市民への周知・啓発を行う。また、市役所内では地域の医療に関する状況や健康状態を把握し、健康づくり事業を検討する。							
分析内容	<ul style="list-style-type: none"> 健康予報システムのデータを分析すると3年間（2017年度から2019年度）の医療費の増加率が国民健康保険は95.9%、後期高齢は106%、協会けんぽは160%と若い世代が多い協会けんぽにおいて医療費の増加率が高い。 協会けんぽの医療費のうち増加率が高い疾病は腸がん（273%）、肺がん（256%）、乳がん（249%）、子宮がん（191%）などがんに係るものが上位を占める。 							
課題	<ul style="list-style-type: none"> 若い世代におけるがんの早期発見・治療による医療費の削減に加え、健康寿命の延伸を目指す必要がある。 							
戦略・施策	<ul style="list-style-type: none"> 令和3年度大腸がん・肺がん検診受診者のうち令和5年度において未申込者に対して電話勧奨を行う。 令和4年度子宮頸がん検診（未受診者）に対し、検診の必要性和自己HPV検査の案内を発送し、希望者にキットを送付する。 							
取組結果	<ul style="list-style-type: none"> データ分析から導いた課題や施策について財務担当者に資料を提出し、電話勧奨の取組についてR5年度予算を確保した（自己採取HPV検査は予算確保に至らなかったためR6年度に再度予算の要望の予定。）。 その他データ活用において産学官連携も進めており、低出生体重児低減のため母子健康調査のデータ等から母子の健康に対する気づき得て新しい公共サービスに繋げる取組や、連携から得た気づきを基に妊娠前におけるケア（プレコンセプションケア）を推進している。 							

医療費の比較分析

【医療費の比較】

●国民健康保険

	2017年度	2018年度	2019年度
男子	3,985,344,910	3,811,125,600	3,755,494,470
女子	3,798,737,510	3,656,828,970	3,707,067,060
合計	7,784,082,420	7,467,954,570	7,462,561,530

2017年度⇒2019年度増加率
95.9%

●後期高齢

	2017年度	2018年度	2019年度
男子	3,643,207,090	3,064,145,290	3,763,722,820
女子	5,573,481,950	5,017,632,130	6,001,540,320
合計	9,216,689,040	8,081,777,420	9,765,263,140

2017年度⇒2019年度増加率
106%

●協会けんぽ

	2017年度	2018年度	2019年度
男子	1,546,399,960	2,052,898,410	2,547,038,170
女子	1,576,024,360	2,002,261,740	2,452,451,770
合計	3,122,424,320	4,055,160,150	4,999,489,940

2017年度⇒2019年度増加率

160%

【出典】岩見沢市提供資料

施策アイデア

課題を踏まえた令和5年度の新規取組み(予算要望)

【取組み①】

●電話による勧奨強化

令和3年度肺がん、大腸がん検診受診者のうち、令和5年度において、未申込者に対して電話勧奨を行う(500人予定。協会けんぽ含む)

【取組み②】

●自己採取HPV検査(若い世代へ子宮頸がん検診を受診することの必要性の周知)

(対象) 22歳～25歳(25歳以上から子宮頸がん罹患が増加傾向)
令和4年度子宮頸がん検診(未受診者)に対し、検診の必要性和自己HPV検査の案内を発送(協会けんぽ含む)し、希望者にキットを送付(先着120人)
▶HPV陽性者は検診を受診するまで何度も勧奨するとともに、陰性者に対しても、受診啓発を行う

財政担当者に、データを活用した課題・取組みについて資料を提出し予算確保に向け協議

【出典】岩見沢市提供資料

健康予報システムを利用した 健康づくり事業の検討

北海道岩見沢市

活用目的				地域課題キーワード	分析者			
現状の把握	課題の特定	戦略・施策 の検討	効果の検証	【医療・介護・福祉】 医療費削減、健康寿命の延伸	教育機関	地方 公共団体	研究機関	民間企業 ・団体
○	○	○					○	



定量的な分析
 定性的な分析
 情報の整理/施策の検討
R RESASを活用した分析 **V** V-RESASを活用した分析

- 健康保険別の医療費の分析から、若い世代が多い協会けんぽにおける医療費の増加傾向が強いことを把握した。
- 疾病別健康保険別の医療費の分析から、特に若い世代のがんに係る医療費が増加している傾向を特定した。
- 本事例においては疾病別、健康保険別の医療費の分析であるが、健康予報システムでは疾病数、通院人数、通院回数、健康診断受診数を疾病種別、年代別、年度別、中学校区別、男女別に分析を行うことが可能である（全市民の74%をカバー）。



健康予報システムのデータを活用し、地域の医療費において健康保険別の医療費の増減傾向を分析し、若い世代が多い協会けんぽにおける医療費の増加傾向を把握した。また、協会けんぽの中でさらに疾病別に医療費の増減傾向を分析し、特にどの疾病において増加傾向を顕著に表れているのかを特定した。

医療費の比較分析

●国民健康保険

	2017年度	2018年度	2019年度
男子	3,985,344,910	3,811,125,600	3,755,494,470
女子	3,798,737,510	3,656,828,970	3,707,067,060
合計	7,784,082,420	7,467,954,570	7,462,561,530

2017年度⇒2019年度増加率
95.9%



●後期高齢

	2017年度	2018年度	2019年度
男子	3,643,207,090	3,064,145,290	3,763,722,820
女子	5,573,481,950	5,017,632,130	6,001,540,320
合計	9,216,689,040	8,081,777,420	9,765,263,140

2017年度⇒2019年度増加率
106%



●協会けんぽ

	2017年度	2018年度	2019年度
男子	1,546,399,960	2,052,898,410	2,547,038,170
女子	1,576,024,360	2,002,261,740	2,452,451,770
合計	3,122,424,320	4,055,160,150	4,999,489,940

2017年度⇒2019年度増加率
160%



【出典】 岩見沢市提供資料

2-1

課題を踏まえた
施策の検討

- 定量的な分析
 - 定性的な分析
 - 情報の整理/施策の検討
- R** RESASを活用した分析 **V** V-RESASを活用した分析

- 若い世代のがんの早期発見・治療による医療費の削減、健康寿命の延伸に向けた施策内容を検討した。検討した施策について予算確保に向けて財政担当者と協議を進めた。

2-1

課題を踏まえた
施策の検討

課題である若い世代のがんの早期発見・治療を促すため、下記施策を検討した。

- 令和3年度大腸がん・肺がん検診受診者のうち令和5年度において未申込者に対して電話勧奨を行う。
- 令和4年度子宮頸がん検診（未受診者）に対し、検診の必要性と自己HPV検査の案内を発送し、希望者にキットを送付する。

施策アイデア

課題を踏まえた令和5年度の新規取組み(予算要望)

【取組み①】

●電話による勧奨強化

令和3年度肺がん、大腸がん検診受診者のうち、令和5年度において、未申込者に対して電話勧奨を行う(500人予定。協会けんぽ含む)

【取組み②】

●自己採取HPV検査(若い世代へ子宮頸がん検診を受診することの必要性の周知)

(対象) 22歳～25歳(25歳以上から子宮頸がん罹患が増加傾向)
令和4年度子宮頸がん検診(未受診者)に対し、検診の必要性と自己HPV検査の案内を発送(協会けんぽ含む)し、希望者にキットを送付(先着120人)
▶HPV陽性者は検診を受診するまで何度も勧奨するとともに、陰性者に対しても、受診啓発を行う

財政担当者に、データを活用した課題・取組みについて資料を提出し予算確保に向け協議

【出典】 岩見沢市提供資料

さらなるデータ
活用に向けた取組

データ活用した市民の健康づくりとして、低出生体重児低減の取組や妊娠前におけるケア（プレコンセプションケア）等の取組を大学と連携しながら推進している。低出生体重児低減の取組においては母子健康調査の結果を分析し、母子を健康にする取組に繋げる新しい公共サービスを検討している。

低出生児低減の取組



【出典】 岩見沢市提供資料

健康予報システムを利用した 健康づくり事業の検討

北海道岩見沢市

活用目的				地域課題キーワード	分析者			
現状の把握	課題の特定	戦略・施策 の検討	効果の検証		教育機関	地方 公共団体	研究機関	民間企業 ・団体
○	○	○		【医療・介護・福祉】 医療費削減、健康寿命の延伸		○		

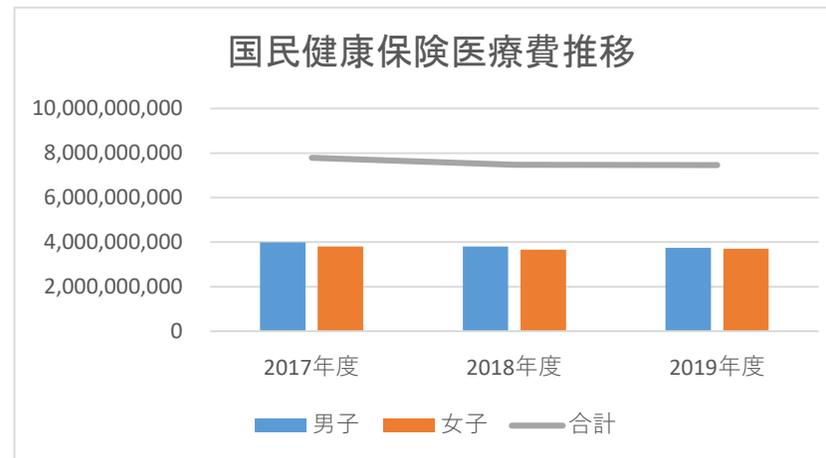
データ活用による課題の把握

【医療費の比較】

●国民健康保険

	2017年度	2018年度	2019年度
男子	3,985,344,910	3,811,125,600	3,755,494,470
女子	3,798,737,510	3,656,828,970	3,707,067,060
合計	7,784,082,420	7,467,954,570	7,462,561,530

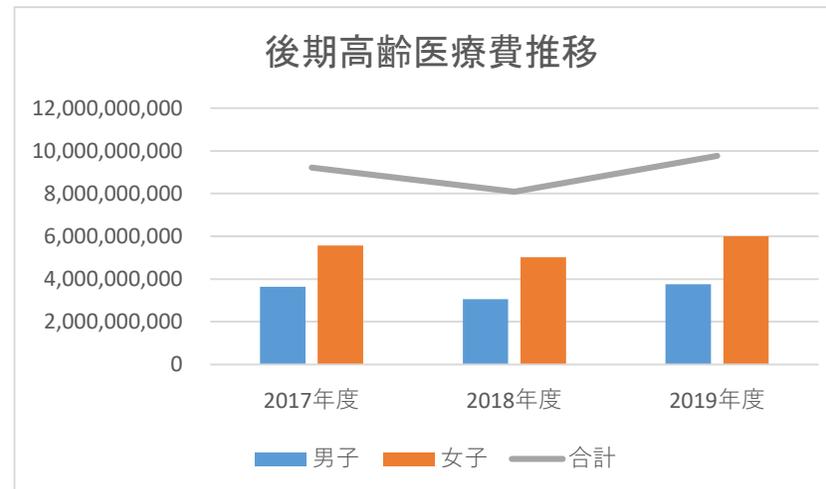
2017年度⇒2019年度増加率
95.9%



●後期高齢

	2017年度	2018年度	2019年度
男子	3,643,207,090	3,064,145,290	3,763,722,820
女子	5,573,481,950	5,017,632,130	6,001,540,320
合計	9,216,689,040	8,081,777,420	9,765,263,140

2017年度⇒2019年度増加率
106%



データ活用による課題の把握

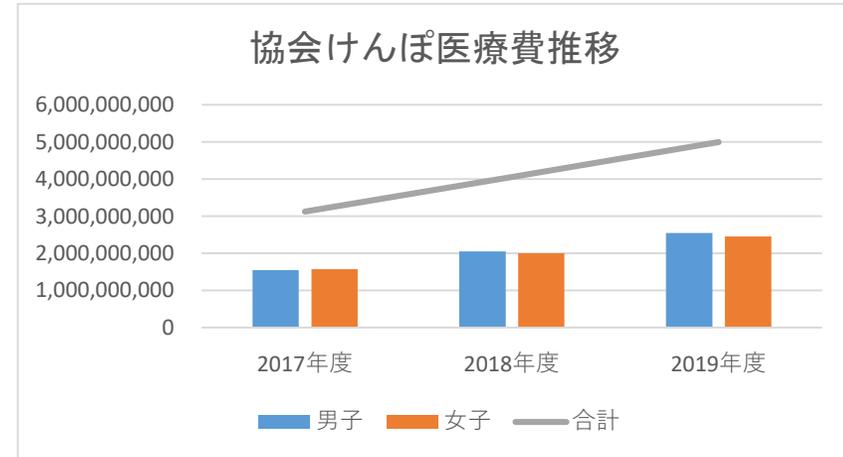
【医療費の比較】

●協会けんぽ

	2017年度	2018年度	2019年度
男子	1,546,399,960	2,052,898,410	2,547,038,170
女子	1,576,024,360	2,002,261,740	2,452,451,770
合計	3,122,424,320	4,055,160,150	4,999,489,940

2017年度⇒2019年度増加率

160%

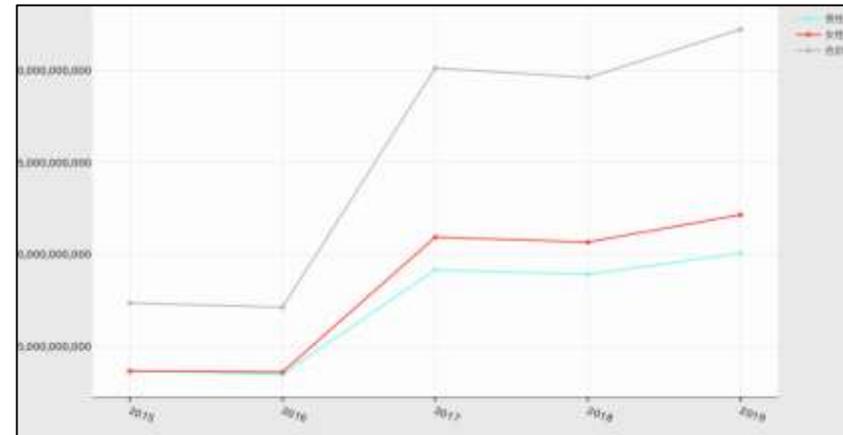


●全体

	2017年度	2018年度	2019年度
男	9,174,951,960	8,928,169,300	10,066,255,460
女	10,948,243,820	10,676,722,840	12,161,059,150
合計	20,123,195,780	19,604,892,140	22,227,314,610

2017年度⇒2019年度増加率

110%



データ活用による課題の把握

【課題】

<データ活用から見えた課題>

①国保(95.9%)や後期高齢(106%)に比べ

協会けんぽの医療費の2017⇒2019年度増加率(160%)が高い

➡若い世代の医療費が増加傾向

(保険者数が増えているのかもしれませんが)

②協会けんぽの医療費のうち、2017⇒2019年度増加率が高いのは、
腸がん(273%)、肺がん(256%)、乳がん(249%)、子宮がん(191%)など、
がんに係るものが上位を占めている(スライド10参照)

➡若い世代のがんに係る医療費が増加傾向

<その他、市の課題>

①肺がん、大腸がんの標準化死亡比(SMR)が高い

②子宮がん、乳がん検診の受診率が低い



がんの早期発見・治療による医療費の削減に加え、健康寿命の延伸を目指す

課題を踏まえた令和5年度の新規取組み(予算要望)

【取組み①】

●電話による勧奨強化

令和3年度肺がん、大腸がん検診受診者のうち、令和5年度において、未申込者に対して電話勧奨を行う(500人予定。協会けんぽ含む)

【取組み②】

●自己採取HPV検査(若い世代へ子宮頸がん検診を受診することの必要性の周知)

(対象) 22歳～25歳(25歳以上から子宮頸がん罹患が増加傾向)

令和4年度子宮頸がん検診(未受診者)に対し、検診の必要性と自己HPV検査の案内を発送(協会けんぽ含む)し、希望者にキットを送付(先着120人)

➡HPV陽性者は検診を受診するまで何度も勧奨するとともに、陰性者に対しても、受診啓発を行う

財政担当者に、データを活用した課題・取組みについて資料を提出し予算確保に向け協議